



森のなかま 2010年 11月号

NO. 31 (継続176)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 島岡 功
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

第11回水源環境保全*再生かながわ県民フォーラム開催報告

副理事長 久保重明

第11回県民フォーラムが10月24日川崎総合自治会館ホールで開催されました。川崎・横浜地域フォーラムの担当者は、私を含め4名で6期の北村さんもメンバーの1人です。今年1月26日に第7回県民フォーラムが横浜で開催され、その折には武川理事にパネリストとして登壇されたことは記憶に新しいと思います。今回は川崎で開催、遠く酒匂川や相模川から運ばれてくる水を多く利用している川崎市、その水を再認識していただく上でもテーマは「私たちの水はどこからきているか」ということで、企画の速い段階で決まりました。パネルディスカッションの要のコーディネーターにはお忙しい法政大学田中 充教授に、またパネリストにはコカ・コーラセントラルジャパン(株)常務執行役員島田勝一氏に快く引き受けて頂きました。また川崎で開催するならこの人を除いては無いだろうということで、島岡理事長にお願いしました。最後のパネリストは今回のリーダーの井伊さんが苦労して探した日本ミクニヤ(株)環境防災部 課長原田智也氏にお願いしましたが、あとで11期の方だと知り驚きました。川崎市は北西方向に長く、臨海部、中央部そして北部と全く町の雰囲気も違い、どのようにしたらフォーラムの開催の情報を流せるか難問でした。取敢えず(財)川崎市公園緑地協会の8期の野牛さんに連絡を取ったところ、極めてスピーディーに公的な場所へのチラシを配布し、またチラシの送り先をお教えて頂きました。また会の事務局から繰り返し会員に参加の呼びかけ、さらに井伊リーダーがFM川崎に出演し市民に参加を呼びかけました。勿論フォーラムチーム全員がそれぞれの関係先に参加をお願いしたことは言うまでもありません。チラシができてから1ヶ月弱、やるだけのことはやったと言う気持ちで当日を迎えました。

当日の会場は川崎市総合自治会館で用水路沿いの収容人数200名くらいのホール有する建物です。開場は13時であり、その前から何人かは集っていたが、その後の出足は悪く、座席の1/3くらいを埋めるくらいで始まりを迎えました。県民会議委員で旧津久井町長の天野氏の挨拶、水源環境保全課長のこれまでの施策説明を終え、パネルディスカッションでは水源環境保全・再生での問題点について田中教授の短い講演、引続いてパネリストからの活動紹介および行政に対する要望などが出された。島田氏からは行政には市民と手を携えて活動して行く上のリーダーシップを期待したい趣旨の発言があった。島岡氏からは短期的に効果の出る施策を、また原田氏からは若い人達がボランティア活動に積極的に参加して貰いたいとの要望がありました。

引き続いて行われた第二部では「第2期かながわ水源環境保全・再生実行5か年」の骨子案について水源環境保全課の長谷川主幹が説明し、ついで水源環境保全課、森林再生課、自然環境保全センター、環境科学センター、税制企画課が壇上に上がり、会場からの質問に答えた。会場からは桂川・相模川流域協議会メンバーから上流部の対応についての質問やまた他に会場から水源税の使う範囲についてもっと広範囲に使うべきとの意見も出された。答えに必ずしも会場が納得した訳ではないが、何回かこのような説明会を実施することが大切だと思っております。われわれ県民フォーラムチームとしては、多くの県民の方々に水源税でやってきたこと、

さらに第2期の5年間計画(骨子案)に対して批判も含め意見を吸い上げ、よりよい施策につなげようとしております。会員の皆様には水源環境保全・再生県民会議や県民フォーラムなどの言葉が飛び交い分かり難いことも多いと思います。今回の報告とは別に改めて、説明させて頂きます。最後になりましたが忙しい中、駆けつけて頂きました多くの会員の方々には深く感謝いたします。



熱気ある会場風景

写真・広報部(鈴木松弘)

安全管理技術講習会を開催！！

森林部会*部会長 浦野 稔

9月20日（月・敬老の日）に南足柄市苅野の鈴木碩鎮氏（インストラクター6期）所有林において実施しました安全管理研修（間伐編）の内容をご報告します。安全管理委員会と森林部会の共催で、インストラクターとして森林づくりボランティア活動やネットワーク活動現場における間伐指導を想定した内容で行ったものです。

参加インストラクターは36名、まず間伐時における危険要素は何があるか、またそれを回避する手段について、講師の川又林業・川又正人氏の指導により全員参加で討議を行いました。その後、危険要素の例としての伐倒時のはね返り、および掛かり木の処理について、講師の川又林業・井伊秀博氏による実際の作業を通じた解説により、危険となる要因をあらかじめ認識し対応を考えておくことが重要であるとの理解を深めました。その中で筆者が注目したのは井伊講師の基本通りの手順、納得するまで何回も行なっていた確認作業（安全上、作業上すべてについて）またそれらをごく自然な感じでこなしていた事です。全てが安全に繋がる動作であり見習うべきです。ただしあのような機敏な動作は一朝一夕にはなかなか真似できないでしょうが…。

次に、昼食を挟んでロープワークの実習（講師11期松永廣氏）、「安全チェックシート」の活用法、安全に対する配慮の実際などの解説（講師6期武川俊二氏）を行いました。

ここで、何度でも確認をしたいものとして、安全管理の視点から一般参加者に対するインストラクターが行う間伐指導の手順についての要点を挙げてみます。

- ・作業場への移動時に歩き方、行動などから参加者の状態を見極める。注意箇所では声掛けを行う。
- ・現場に到着したら再度人数確認。作業内容とその意味、現場の状況や作業手順の説明を行う。
- ・デモンストレーションにより間伐方法を伝える。安全な作業のための手順を伝える。



- ・作業開始後も参加者への安全配慮に欠けることがあってはならない。
- ・休憩の取り方は進行状況を見ながら、簡単なお話など参加者を飽きさせないよう積極的に声掛けを行う。
- ・掛かり木の処理は状況により他のインストラクターの応援を頼むなど最大限安全を確保した方法で行う。
- ・間伐作業において想定される危険要素を充分認識しておく。何が危険か、参加者が「知らないことによる危険」があることにも注意する。

安全管理委員会が新たに作成したチェックシートの活用法についてご紹介します。インストラクター活動における安全・安心の指導を行うための手引きとして活動分野ごとのチェックシートが作成されましたのでそれぞれの分野で利用して頂くことになります。

- ・集合時打合せで安全チェックシートの確認、作業内容に合わせた「本日の安全目標」の確認を行なう。
- ・作業前に参加者に対しチェックシートに沿って安全確認を行なう。「本日の安全目標」を参加者に周知する。
- ・ヒヤリハット事例が発生した場合は安全管理委員会担当者（チェックシート末尾に記載）に報告する。形式自由、内容が理解できれば良い、1行でも良い。
- ・事故発生時は手順に従い対応する（「事故発生時の行動フローチャート」による）。



研修を通じて改めて感じたことは、基本を繰り返し実践することが安全に繋がること、ということです。指導手順の基本、作業の基本、それらを我々インストラクター全員が、分かっているというだけではなく、チームとして実践できることが重要なこととなります。

（訂正のお願い）「森のなかま」2010年9月号掲載の「成長の森 下刈り作業完了報告」の記事中6行目「面積1,240平方メートル」とあるのは「面積12,400平方メートル」が正しく、訂正します。

森林文化部会「紙すき/紙クラフト教室」開催報告 山北町中川水源交流の里

井出 恒夫<1期>

【活動内容】

松田町から山北町にかけての西丹沢一帯には随所にミツマタの群落があります。戦前から戦後にかけて、和紙やお札などの原料として栽培されていたミツマタですが、輸入パルプに押され紙の原料用としては放置され今に至っています。森林文化部会ではこのミツマタを利用した紙すき体験を数年前より実施していますが、今回は山北町が最近導入した紙すき施設をお借りし、紙すき・紙クラフト教室を実施しました。

【一日目：紙すき】8月28日（土）9時半～15時

手順⇒①皮はぎ、②黒皮削り、③ソーダで白皮を煮る、④塵取り、⑤叩き、⑥ミキサーかけ、⑦紙すき（流しすき、溜めすき）、⑧圧搾、⑨乾燥

すき具はA3程の大きさがあり、かなりやりがいがある。圧搾機、乾燥機のおかげで平滑で和紙らしい紙ができたが、全般的に少し薄い紙になった。すき船に入れる原料の分量やネリの濃さなどまだまだ改善の余地はあるが、数回の体験を経て紙すきも部会の定番メニューとして定着してきたように思う。



【二日目：紙クラフト】8月29日（日）9時半～15時

一日目に作った紙を使って、ランプシェードの作成を行いました。膨らませた風船に5cm角ほどに千切った紙を張り付けて行くのですが、なかなか根気が必要な作業です。天日で乾かした後電球にかぶせてみましたが、**大変雰囲気があるシェード**ができあがりしました。



ミツマタの花

データー

一般参加者 7名（内小学生3名）

参加インストラクター

井出①、米本②、落合③、久保田⑤、白畑⑦、武者⑦、松村（俊）⑧、斉藤（彰）⑧、内野⑨、高橋⑨、小笠原⑩、海野⑩、中元⑩、福原⑩、酒井⑩、上宮田⑪、真貝⑪、佐藤⑪、

私の認識

野鳥その82

高橋 恒通

スズメ目ホオジロ科の野鳥の中で私が独断と偏見で選んだ“希に見られる野鳥”を纏めてご案内いたします。

私自身これらの野鳥は未だに見た事はありませんし図鑑に載っていないものもあります。

因みにホオジロ科の野鳥は世界で約550種、日本で25種、そして我国で繁殖するのは9種と言われております。これまでに13種を紹介して来ました。

では希に見られる野鳥、旅鳥または冬鳥のシラガホオジロ（漢和名：白髪頬白、英名：Pine Bunting 体長L=17cm）から案内します。

体色は♂♀ほぼ似てますが、成鳥♂は頬に白斑があり、頭頂部は白と茶褐色で名前の根拠の白髪状です。成鳥♀はこれらの特長は無くカシラダカに似てます。♂♀共に尾羽の先は海老の尾の如く浅い凹型です。

北海道や日本海側、その離島で見られるそうです。棲息環境は山地の草原、農耕地そして林縁などとのことです。

次が旅鳥のシロハラホオジロ（漢和名：白腹頬白、英名：Tristrams Bunting, 体長L=15cm）についてです。我国で目撃されるのは殆ど夏羽の体色だそうです。成鳥♂は頭部が黒色で、白色の頭中央線、眉斑、顎線、そして頬の後方に黒地の中に小さな白斑があります。

棲息環境は日本海側の島嶼部（トウショブ）、即ち対馬や舩倉島（ヘクラジマ）などの林縁や農耕地だそうです。

続いても旅鳥のシマノジコ（漢和名：島野路子、英名：Chesnut Bunting, 体長L=14cm）について少しご案内致しましょう。

シマノジコは春の渡りの折に旅鳥として上記シロハラホオジロと同じく日本海側の島嶼部で観察されます。その理由は体色一特に成鳥♂の一に特長がある為と思われる。

夏羽の成鳥♂のそれは英名の根拠Chesnut（チェスナット）とは栗の実です。シマノジコの♂は頭部全体、背面、喉下、腰が赤茶色、即ち栗色です。

これに加えて胸前から下面両脇が黄色なので大変に目立つ色です。然も囀りは短いけれどカナリヤの様に美声、と図鑑にあります。

シマノジコ、シロハラホオジロ共に越冬は中国南部、繁殖はシベリヤですので約5千キロの距離です。渡りの途中に日本海側島嶼は恰好の休息場所です。

従って、興味と金と暇のある人は4~5月頃に舩倉島に行けば遭遇の機会に恵まれるかもしれません。

次も旅鳥のキマユホオジロ（漢和名：黄眉頬白、英名：Yellow-browed Bunting, 体長=16cm）です。この野鳥も亦、シマノジコと同じく春の渡りに対馬や舩倉島で見られます。

体色は夏羽♂が和名の根拠である黄色眉斑に同定のポイントがあります。頭部が黒、頭中央線と顎線が白、黄色眉斑です。一見ミヤマホオジロかと思いますが、ミヤマには冠羽がありますので判断はできると思います。

以下は名前だけ記載します。冬鳥のシベリアジュリン（漢和名：シベリア寿林、英名：Pallass Reed Bunting, 体長L=14cm）、迷鳥のキアオジ（漢和名：黄青鶉、英名：Yellow Hammer, 体長L=16cm）迷鳥のクサチヒメドリ（漢和名：草地姫鳥、英名：Savanna Sparrow, 旧名、サバンナシトド、体長L=14cm）。尚、シトドと呼ばれる迷鳥はこれ以外3種ほど載った図鑑もありますが省略させていただきます。

因みに“シトド”とはホオジロの旧名を指すものと私は認識しております。



シラガホオジロ

シロハラホオジロ

さて、今回でスズメ目ホオジロ科の野鳥の案内は終了です。次回はキジ目ライチョウ科の野鳥をご案内します。ご期待ください。

<参考資料>

- ・日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7
写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力 /安哉直哉 解説(鳴声)/上田秀雄 山と溪谷社
- ・フィールドガイド 日本の野鳥、野鳥ブックス② 高野伸二著、(財)日本野鳥の会
- ・鳥 630図鑑、(財)日本鳥類保護連盟
- ・鳥のイラスト ~春~

活動短信

9/4~10/16

「平成22年度 川崎市里山ボランティア 育成講座・中級編・第三回」

- 日 9月4日(土) 晴れ
場 午前：麻生市民会館岡上分館
午後：岡上梨の木特別緑地保全地区
参 一般市民 20名(男 15名・女 5名)
スタッフ 川崎市公園緑地協会・川崎緑レンジャー
一他 11名

イ L松崎⑤、佐藤⑤、渡辺⑧、川崎市公園緑地協会が実施する「里山ボランティア 育成講座」シリーズ平成22年度の第三回目。今回は午前中かわさき市民活動センター理事長の小倉さん

から市民ボランティア活動についての講義を受けた。川崎市における市民ボランティア活動の全体像が良くわかり、勉強になる内容だった。続いて松崎が「里山作業 植樹後の手入れ」について講義した。午後は近くの梨の木緑地に場所を移し、当緑地での活動団体「かわさき自然と共生の会」指導者の紹介、その後3班に分かれ、インストラクターおよび川崎緑レンジャーの指導のもと、約2時間実作業を行った。作業内容は ①数年前に植樹したクヌギ・コナラ幼樹の間引き ②防寒用の幹巻きの除去 ③長丸太支柱の撤去 の三つ。3班が三つの作業全部を順番に行った。15時無事終了。道具の後片付け、まとめ、次回の案内をし、15時30分解散した。本講座も三回目となり、参加者もなれてきたせいかな猛烈な暑さの中、全員汗みどろになりながらも楽しそうに作業に取り組んでいた。第四回は10月30日に生田榎戸緑地(多摩区枳形)で、竹林整備を行う予定。

(記 5期 松崎)

水源林保全体験

日 9月4日(土) 晴れ
場 宮ヶ瀬湖畔園地内
主催 県・企業庁サービス協会
参 大人15名、子供12名
スタッフ 県・企業庁水道記念館、3名
イ L高橋③、渡辺③、横山⑤、白畑⑦、

水源林保全体験イベントとして、午前中下草刈りを行い、午後は宮ヶ瀬ダム・水とエネルギー館の見学をした。

草刈の場所は宮ヶ瀬湖畔園地内の平坦な一角で、後ろを時々ロードトレインが通るなごやかな所だった。柵を乗り越えて現場へ入る。約半数が子供で、大人も女性が多く、初めは戸惑っていたがすぐに慣れていった。中でも小1位と思われる女の子がカヤで指を切った後も、中ガマを手に黙々と草に挑んでいるのが印象的だった。

水分補給の休憩を挟んで残りの作業を始めると目の前に宮ヶ瀬湖の水面を見る事が出来た。ハチの巣があったが刺された人は居なかった。

酷暑日続きの中、厳しい作業だったが、スタッフの方の水分補給が行き届き、無事終えることができた。

(記 7期 白畑)

「平成22年度 川崎市里山ボランティア 育成講座・入門編・第三回」

日 9月5日(日)
場 久地緑地
参 一般市民、16名(うち子供6名)
スタッフ 川崎市公園緑地協会ほか 9名
イ L清水⑧、永野⑥、伊藤⑦、井口かおる⑧、
 小林⑩、金森⑩、

計六回講座の第三回目、最寄り駅から地図を頼りに集合場所まで徒歩10分、住宅地に隣接した久地緑地にて実施。大きなクヌギや湧水もあり地域の貴重な緑となっている。

現地で活動する団体「津田山緑地里山の会」からフィールドの説明・活動案内の後、3班に分かれて作業を行う。作業は下草刈り(主にアズマネザサ)、シュロの除伐、ヘッジ作り(竹を利用)、を班ごとにローテーションしながら進めた。最後に使用した鎌を研ぐ。親子の参加は、まず親が経験し子供に伝えることを徹底する。

作業中に別途調査した水辺の生き物を報告する。さらに詳しい報告を聞きたい班、シュロ蛇を作りたい班、シュロの大木を伐採したい班に分かれて体験する。水辺の湧水は枯れていたが、勝呂氏の調査でサワガニやヘビトンボの幼虫が見つかる。シュロ蛇は柿沼氏の指導で皆さんなんとか仕上げる。伐採で捨ててしまうシュロの葉を持ち帰ってもらう。シュロの伐採は狙った方向通りに倒れた瞬間、歓声があがった。

非常に暑かったが、津田山緑地里山の会からアイスクャンデーのサプライズがありこれは有り難かった。(記 10期 金森)

横浜市立桜井小学校森林活動(間伐)

日 9月10日(金)
場 相模原市長竹
参 5年生 79名、教師ほか 6名、
財 鳥海、古舘、
イ L小野⑦、島岡③、横山⑤、須長⑥、伊藤⑦、
 塩谷⑦、武者⑦、酒井⑩、

森林からの贈り物を活動目標にしての長竹ヤードでの間伐とコースター作り作業は12時20分よりスケジュール通りスタートする。

現地はヒノキの11~12年生植栽地で傾斜も緩く小学生の活動場所としては好適地である。8班編成で担当区域に入りインストラクター指導のもとに作業を開始した。伐木・コースター作りの作業の合間に、森林の役割やその大切さ、今抱える問題点など生徒の質問を交えながら説明し、理解を深めることに務めた。多くの生徒がおそらく初めてであろう鋸の扱いに戸惑いながらも懸命に取り組む姿とハキハキした質問や、我々の説明をしっかり聞く態度に感心した。

午前中の宮ヶ瀬ダム見学に続く森林作業体験で今まで以上に森への親しみと関心を深めてくれた事と期待される一日でした。(記 7期 小野)

森林づくりボランティア活動

日 9月17日(金) 9時~13時
場 座間市芹沢公園(芝生広場脇 樹林地)
参 座間市募集の19名(女性4名)
主催者 座間市公園緑政課、課長他2名
イ L高橋③、渡辺③、

挨拶 オリエンテーション、作業内容、注意事項の説明、軽い体操の後、集合場所の芝生広場の北側にある散策路沿いの緩斜面の除伐を、参加者19名を2班に分けて行った。晴天の暑い日だったので随時休憩、水分補給をしながらでも予定の場所の除伐は10時40分頃までに終了。広場に戻り作業に使った

鎌の手入れ(安全な鎌研ぎを指導した)を行った。

続いて正午前まで園内の自然観察をした。そして昼食を摂り乍らミニレクチャーと言う事で、渡辺さんは「森林と水」を中心に紅葉の仕組みやハガキの語源など大変に有益な話を約30分、私は「森林に感謝しよう」と題する森林の働きについて約10分行った。

今日の参加者19名の中で、初参加の方は男女各1名だけで残りは全てリピーターの為か、**ヒヤリハット**も無く終わりに課長より本講習会の終了証書が参加者に授与され午後1時過ぎに全てを終えた。(記 3期 高橋)

パートナー林活動 間伐作業

日 9月22日(水) 10時~13時
場 やどりき水源林
参 三菱重工業(株) 34名・**スタッフ** 3名
イ L飯澤⑨、戸谷⑥、波多野⑩、

インストラクター3名共20日に森林部会が実施した「安全管理技術講習会」を受講したばかりなので実践に活かすことにして、定刻1時間前に集合し安全ミーティングをチェックシートに基づいて行い安全確保のために何をするか確認してから用具を倉庫から出し参加者の到着を待った。定刻に少し遅れて若い男女がスタッフに引率されて到着した。参加者全員が間伐は初めてとのことで、作業を始める前に「水源林、森林の役割や機能、森林の手入れ」について説明し、「安全作業」について注意を促し、「準備体操」を入念に行ってパートナー林に向かった。現場では3班に分かれ、班毎に1本ずつ基本の流れに沿って処理していった。ここでも安全講習会で習得した事が大いに役立った。伐倒本数は各班1~2本と少なかったが参加者は色々な体験が出来た事と思う。作業後、先方が用意した弁当を参加者と一緒に食べながら歓談をして過ごした。女性の参加者は食後滝郷の滝の見物に行き歓声を上げてマイナスイオンを十分に浴び喜んで記念撮影をしていた。終了の挨拶では全員が気分は最高のサインをして帰途についた。(記 9期 飯澤)

水源の森林づくり街頭キャンペーン 秦野たばこ祭と初のタイアップ出展

日 9月25日(土) 晴れ / 26日(日) 晴れ
場 秦野市西庁舎駐車場
財 25日、高橋課長、26日、豊丸
イ 25日、L竹島③、落合③、渡辺③、横山⑤、武本⑦、山崎⑦、渡部⑦、内野⑨、高橋⑨、村井⑨、金森⑩、角田⑩、牧野⑩、尾崎⑪、松本⑪、
 26日 L森本⑤、相馬⑤、横山⑤、伊藤⑦、武本⑦、山崎⑦、渡部⑦、浦野⑧、加藤⑧、小沢⑨、村井⑨、金森⑩、牧野⑩、

当日は台風12号の余波で雨残りが心配されたが午前10時頃から晴天になる。

しかし台風と2日前(23日)の大雨に寄る影響?でやどりき水源林へ向かう林道が土砂崩れ、街頭キャンペーン前日に、得意とする丸太きりのヒノキ材、ウマ、水源涵養実験装置の搬出が不可能になり、急遽予定を変更。私たちのブースはチームワーク良く来場者は受付(呼び込み、案内、景品どっさりの緑の募金)から水源の森林づくりの話(紙芝居+お土産付き)そして“どんぐりトトロ”づくりに親子共々楽しみ木の実の名前など聞き目を輝かし、出来栄えに満足の様子でした。26日には10期の金森さんが独楽を持参され、これまた父子が挑戦、お父さんが子供に教える微笑ましい姿がありました。この**水源の森林づくり街頭キャンペーン**を通じて多くの方々に森林に関心を持って戴き継続して地道ながらも普及啓発活動していくことが大切な事と思いました。(記 10期 牧野)

水源林保全体験(下草刈り)

日 10月2日(土) 晴れ 8時45分~16時半
場 箱根町 仙石原 イタリー水源林
参 一般応募 32名(大人20名、子供12名)
スタッフ 県・企業庁サービス協会 内田、高橋他
森林組合 2名、**看** 1名

イ L飯澤⑨、横山⑤、金森⑩、酒井⑩、
 県営水道利用者に水源林保全のための取組みを通して、水資源の大切さや水道事業への関心を深めていただくことを目的にイタリー水源林の草刈りを実施した。厚木からガイド付きの観光バスで仙石原のイタリー浄水場に行き場内の道沿いの草を刈り取った。草刈りは30程で終わったので残りの時間は自然観察をした。運の良い事にツチアケビ、モリアオガエル等珍しいものを観察することができた。草刈り後、浄水場の膜濾過施設を見学し、箱根ビジターセンターに移動して昼食を取り1時間程休憩した。その後県立生命の星・地球博物館に移動し、ここで1時間半程見学して、小田原厚木道路で厚木に戻り解散した。(記 9期 飯澤)

県民参加の森林づくり活動(間伐&植栽)

日 10月2日(土) 晴れ 9時半~12時
場 小田原市久野
参 一般県民 39名
財 古舘、永島、**看** 田嶋
イ L青木⑩、森田①、長谷山③、久保寺⑦、野牛⑧、辻村⑨、

晴天に恵まれ、ススキの穂がゆらぎ、赤トンボの飛び交う秋めいた山の風景の中での作業でした。

このところの雨続きで土の緩みも心配しましたが、平坦な山でしたので心配なく作業が出来ました。

私は過去経験したことの無い一日で植栽、枝打ち、間伐作業を行うと言うスケジュールでしたが、植栽の後、枝打ち、間伐の山へのバス移動も計画通りに心配することなく出来ました。この場所も平坦でしたが、植栽地は草が茂り草をかき分けての作業でした。枝打ちと間伐は同一場所で、木はあまり成長していませんでしたので、参加者も作業がしやすく、切り株の匂いをかいだり、切り方を考え直したりを

楽しんでいました。

作業後の反省会では、今日の山は個人の山であったので、切り株を短くし切った木はある程度片付けて欲しかったとのことであった。事前確認が必要と思われました。(記 1期 森田)

自然観察会 ～秋のきのこ観察～

日 10月2日(土) *3日(日) 10時～15時
場 県立21世紀の森
参 一般募集、2日 14名、3日 16名
イ 千葉⑦、



募集人員の倍の応募があり、2日とも抽選での参加者決定。この21世紀の森で5年間続けていることで、秋の人気イベントとして定着しているのがインストラクターとしても嬉しい。

10:00 参加者集合、観察会の前に、45分ほど講義。内容は、①菌類の中のきのこ②食中毒を起こすきのこ③きのこの構造④栽培きのこ⑤海外のきのこ⑥おまけで、菌類の研究者として知られた南方熊楠について、説明した。

11:00 森林館をスタート、採取したタマゴダケを手ききのこの構造を再度、説明。卵状のつぼを見て、参加者も名前の由来に納得の様子。その後、アカメガシワの木に大量発生したアラゲキクラゲ、数年前に食用きのこから毒きのこに格下げ?されたスギヒラタケ、その他、ノウタケ、ゴムタケ、ホコリタケ、ツチグリ、ハナビラニカワタケと、観察することができた。

昼食後、14時から採取したきのこの同定。同じ種類でも大きさの個体差、幼菌・成菌・老菌での外観の違いなど、外観から同定することの限界も含めて伝えた。(記 7期 千葉)

県民参加の森林づくり活動

日 10月6日(水) 晴れ 9時40分～14時20分
場 箱根町 仙石原(町有林)
参 一般県民 69名
財 鳥海、永島、**県森連** 2名 **箱根町役場** 3名
看 廣島
イ L女川⑨、長谷山③、柳③、堀江④、愛木⑦、斉藤⑧、村井⑨、海野⑩、酒井⑩、杉崎⑩、大澤⑩、**研** 石原⑧、柴⑩、波多野⑩、柳澤⑩、吉田⑩、

仙石原はさわやかな晴天に恵まれ、植栽日和となりました。バスを降りた仙石原浄水センターでオリエンテーションを済ませ、植栽現場までは徒歩で約30分の道のり。ウォーミング・アップは充分です。箱根町の岡崎明氏(研修でお世話になった元県民運動課長)による植栽の講義の後、5班に分かれて作業を開始しました。植えた苗木は箱根の植生でなじみの深いヒメシャラ、イロハモミジ、ヤマボウシ、ヤマザクラの4種類で、合計880本ありました。今回の植栽では、植えた後、その脇に竹棒の支柱を立て、麻縄で苗木を固定するという作業も加わりました。

班毎の唐鍬の数にアンバランスがあったり、苗木の数が偏ったりしましたが、融通しあって問題解消。少しがんばってもらって12時30分には植え付けを完了することができました。滑って尻餅をついた人はいたものの、怪我もなく、無事に終わることができました。

(記 9期 女川)

パートナー林活動 間伐/自然体験

日 10月16日(土) 10時半～16時
場 やどりき水源林
参 (株) 荏原製作所 33名(内 子供11名)
荏原スタッフ 鈴木、田中、高木、
県 自環保 小司 **看** 小林
イ L高崎④、坂齋⑦、草野⑧、福島⑩、

秋晴れの天気にも恵まれた中、午前中は3班のグループに分れ間伐作業を行いました。各班時間差をもうけ、きれいに3本倒しました。子供たちは4歳～小学4年生。のこぎりは皆さんほとんど初めてですが間伐、玉切り、枝払いと、大人顔負けの頑張りでした。

午後の作業はベンチ作りと水生生物観察に分かれ作業に入りましたがここでもベンチ作りに子供たちが大活躍。皮むきに使う鎌を上手に使い荏原製作所看板前に設置できました。水生生物観察では珍しく大きなカジカ等が採取され大きな歓声に包まれました。大人、子供一緒に楽しく過ごせた一日でした。

(記 11期 福島)

TANZAWA * TANSHIN

丹沢に登った会員からの情報を募集します。

4期の堀江さんの提案で、新しいコーナーを設けました。題して「TANZAWA*TANSHIN」

猛暑の一日でしたが、大群山山頂付近の木道脇のマルバダケブキの花にアサギマダラの大群を見ることができました。

あまりの多さにびっくりの感動でした。また犬越路への途中の鹿柵の中にジャコウソウを発見。4～5年ぶりの再会でした。

登山日: 8月16日(月) 晴れ
 コース: 西丹沢～白石峠から加入道山～大群(室)山～犬越路～西丹沢
 (記 4期 堀江)



アサギマダラ(箱根大涌谷) 写真: 広報部 (村井)

やどりき水源林ミニガイド

10月のトピックス



Bコース 杉の樹洞から顔出してるのは何の木でしょう？

11月の水源林

H22年度成長の森見学会が3日と13日に行われます。



「森の案内人」情報

- 実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度(12月1月2月休止)
●集 合：水源林入口ゲート前
●内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。参加自由、参加費無料
*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
●問合せ：(社) かながわトラスとみどり財団 TEL:045-412-2255 fax:045-412-2300
●ホームページ：http://www.ktm.or.jp
●E-mail:midori@ktm.or.jp
●やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

11/26(金) 晩秋の箱根で落ち葉かき体験

紅葉の山を楽しみながら、登山道保全のために落ち葉かきと登山道補修を体験してみませんか？
募集定員：20名
応募〆きり：11月8日必着
費用：保険代。資料代150円
開催担当：神奈川県公園協会
申し込み/問い合わせ
0460-84-9981・箱根ビジターセンターまで

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送り先

<①電子配信希望>

森 義徳
〒232-0053
横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202
Tel/090-5433-7784Fax/<株リコー・森宛045-590-1910>
Mail: myforest@yha.att.ne.jp

<②メール・手書き原稿・送り先>

【本誌】村井正孝
〒226-0002
横浜市緑区東本郷6-22-1-420
Tel/Fax: 045-476-4112
Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp
【別冊】金森 巖
〒227-0038
横浜市青葉区奈良2丁目10-5
Tel/Fax: 045-961-6695
Mail: i_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信

〒194-0001
東京都町田市つくし野2-13-7
Tel/Fax: 042-796-6011
Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp
原稿の締切は毎月20日です。

編集後記
★千葉に所有する森林にトイレを設置しました。災害時用のポータブルトイレ(水洗密閉式)を購入し、山の斜面を大きく削って左右後ろからは見えないように、目の前には森が広がる贅沢な？空間となりました。トイレ設備はいろいろ勉強しました。(金森)

★COP10開催、周囲海洋、恵まれた気候の陸地、その植物生物種類、世界最高。固有種は、ガラパゴスを越す131種、凄い。他方温暖化で、海山の種は大幅変化中。今年、山の減少なく、熊の里山移動多く、現在、900頭以上射殺悲しい。今後の活動は、絶滅危惧種の育成、外来植物生物の発見対策等、本気で会の活動も変化が求められる。次代まで待てず。鈴虫や 釣瓶落として泣き急ぐ”(拙句) (鈴木松)

★今年は日本の各地でクマが人里近くに現れるとの新聞記事を見かけます。猛暑でドングリなどが不作のせいとか。一方で今年はキノコが豊作とも聞きます。国産マツタケを味わえるチャンス到来。(鈴木朗)

松田町だより番外編

お世話になっております。

昨年は、芋焼酎の記事掲載についてありがとうございました。今年は、第2弾として、昨年同様に芋焼酎「百年紀」をつくっています。
11月13日(土)8:00から芋掘りを行う(雨天決行)予定です。もし、ご都合がつけばお手伝いできる方を募集していますので、すべてボランティアになりますが、いかがでしょうか。今年(完成は23年5月末)の焼酎は、甕壺仕込み、限定3,000本です。申込みは役場で行います。1本1,500円1ダース16,000円郵送もOKです。
お問い合わせ：
松田町役場 企画財政課
電話 0465-83-1222まで

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。郵便振替口座00230-0-2454
かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。(頒 価 200円 送料共)

編集人：村井正孝
広報部：井出恒夫 (HP) 金森 巖
鈴木松弘 森本正信 森 義徳
鈴木 朗 上野潤二 原田智也
～春～

森の写真コンクール

平成23年2月18日まで

—作品募集—



問い合わせ先

神奈川県森林協会 電話 045-201-8292
Eメール: kanagawa-crk@poem.ocn.ne.jp

主催
神奈川県森林組合

題材は、森林・林業の普及啓発や森林保全及び林内路網の重要性などを訴えるのに役立つものを対象とします。